

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800846	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成16年6月1日	
法人名	特定非営利活動法人 加齢ライス			
事業所名	ほのぼのほーむ			
所在地	(236-0042)			
	横浜市金沢区釜利谷東7-14-29			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全な明るい環境の中で、個々の能力に応じた役割をしていただくことで、生き生きとした表情に出会う事が、スタッフの力になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月13日	評価機関 評価決定日	平成22年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
 ◇利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。
 毎月1回医師の往診時に定期健診を行っている。
 居室で診察の際に家族も同席し、職員と一緒に医師の話を直接聞いている。
 家族も状況が分かりその場で質問もできるので、利用者は安心して生活し家族も納得している。
 診察が済むと全員がリビングに集まり懇談をしている。そこで家族の意見や要望等も聞いている。

<事業所が工夫している点>
 ◇排泄の自立支援を積極的に行うことにしており、日中はなるべく布パンツで過ごせるように職員全員で見守っている。現在、職員が時間を見てトイレ誘導するのは1名の利用者だけで、その他の方は自分でトイレに行き、職員はさりげなくついて行き、見守ることで済むように支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ほのぼのほーむ

事業所名	ほのぼのほーむ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の「介護十訓」をリビングに掲げ、毎朝利用者とともに唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	「安心と尊厳のある生活を自立して、明るく元気で送れるよう支援する」との基本理念を定め、職員の行動指針「介護十訓」を利用者と一緒に唱和して、意識づけし実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。日課の散歩コースのアメニティ沿いでは、近隣の方々と気軽にあいさつを交わしている。	町内会に加入し利用者はお祭りや神社のお神輿などを見物して地域の人々と交流をしている。地域のボランティアが楽器演奏やフラダンスで訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方をお招きして、レクレーションに参加していただいたり、認知症に関する相談事にはその都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長さん、民生委員さんには多忙にて参加いただけなかったが、近隣居住の職員が多く、常に情報を持ち寄っている。	運営推進会議は昨年3回開催しているが委員の出席が少ない。外部からは地域包括支援センター職員が毎回参加しているだけである。	これからも地域の方に多く関わってもらえるよう働きかけを続けられるよう望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームでの判断が難しいことは、市・区の窓口相談している。	金沢区の担当職員には連絡をとり現況を報告し、介護保険について問い合わせをしたりしている。生活保護関係で保護課職員からの連絡が月1回程度ある。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当然のことなので、職員共々日々話し合っている。玄関は施錠することなく常に入出りを自由に行っている。	身体拘束防止のマニュアルにそって、職員とは課題について話し合い、内容は連絡ノートで全員に知らせしている。玄関は日中は開放している。居室も施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の事例」の学習を行っている。どんなことでも記載できるノートを設置。入浴時に、身体状態の変化の観察も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は何回か受講している。必要な時、家族にも具体的に支援が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は使わず、十分に理解し納得されるまで丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、希望についてはスタッフから報告を受けている。個別にお話を伺い、家族の協力を得ながら解決をしている。「ご意見箱」を設置している。	毎月の協力医の往診時に家族も同席し医師の話を聞き、その後に家族の意見、希望なども聞いている。野菜たっぷり料理の希望が多く、栄養状態を考えて調理を工夫している。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで報告・相談をしながら、働きやすい環境を共に作り上げていくことを、常日頃話し合っている。	1日3回の送り時に職員の意見、提案があったときは、直ぐに取り上げるようにしている。おやつのときの飲み物を、一人ずつ望みを聞いて好みに合わせ、出すようにした例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの個性を尊重している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のケアの積み重ねの中から得るものや、意見交換しながら学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の認知症高齢者会議には、情報交換の場として出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安であることを充分配慮し、同じことでも何度も繰り返しながら対応している。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細なことでも気軽に話せる雰囲気心をかけている。電話での相談、来訪時も常時受けられる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個別性を大切にして、優先順位を見極めながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、出来たことには共感し合える気持ちを表現しながら、家庭的な場所づくりをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状も理解しながら、情報を交換し、不安な状況を解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはいつでも気軽に訪問してもらえるように対応や環境づくりをおこなっている。	友人との電話連絡や手紙のやり取りは希望を聞いて支援している。訪ねて来るお友達に対しては、歓迎の態度を示しお茶などを出して再度来やすいように努めている。遠隔地の馴染みの場所へは、家族に対応をお願いしている。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し良い関係が出来るように、スタッフが把握しながら居心地の良い場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談・支援できる関係にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを伺っている。	利用者それぞれの思いや意向は、日常の会話の中で聞き出すようにしている。表現が困難な方は、態度や顔つき、仕草で感じ取って連絡ノートに書き、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等をお聞きし、アセスメントへ情報を記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で気付いたことなどをミーティング時に情報交換している。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフ・関係者の意見を取り入れながら計画を作成している。	利用者や家族の希望も含めて職員間で情報交換し、医師の意見も入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングをし、3ヶ月毎に見直しをしている。状況の急変時はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、共有すべき事は連絡ノートに記載している。ケアカンファレンス時に意見交換し介護計画書に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・ボランティアなどへ依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医の往診があり、家族の付き添いもあるので情報の共有が出来ている。症状によっては専門病院の紹介もある。	利用者は全員、協力医がかかりつけ医となっている。毎月往診があり家族も同席し、医師の話が直接聞くことができ納得し安心している。歯科は希望で往診してもらっている。その他の診療科目は家族が通院介助する。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師との連携は出来ていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換しながら早期退院に向け連携を図ってきた経験があるので、今後も必要であれば十分対応できる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明と、状態の変化を早めに医師に相談し家族と方向性を話し合っている。	終末期に常時医療処置を必要としないで、協力医の往診等で対応可の場合は、家族の協力を得て看取することができる方針を家族に説明している。医師、職員も協力的で家族との話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況を想定し、何時でも対応できるようにしている。急変時のマニュアルで常日頃確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て防災・避難訓練を利用者も参加し年2回実施している。災害時用非常食と飲料水を備蓄している。	避難訓練は年2回定期的に消防署の指導で、夜間想定訓練も実施している。非常用の食料、飲料水の備蓄をしている。	非常用としての防寒用毛布、トイレ（排泄）用品等も準備しておくことが望まれます。

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすさがなれ合いな対応にしているのは傷つける言動につながりやすいことを常時喚起している。	居室へはノックをし声かけしてから入る、トイレにはさりげなく付いていき見守るなど利用者のプライバシーに気を使っている。利用者には敬う気持ちで接し、なれなれしい態度言葉使いにならないようにいつも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話でも最後まで話が出来るよう、待つ姿勢を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「介護十訓」にもうたっている。希望により訪問美容師も来られる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節感のあるものが多く、好き嫌いなく完食されている。配膳・食器洗い・片付けなどもお願いしている。	食材は給食業者から取り寄せているが、調理法や味付けは好みや希望に合うように工夫している。利用者も盛り付けや片付けを手伝っている。職員も一緒に同じ食事を食べている。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立でバランスが取れている。一人ひとりの状態に合わせて量を調整し、水分量もチェック表で確認することが出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。就寝時、義歯洗浄剤による洗浄。訪問歯科医の検査を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別ケア・支援を行っている	排泄介助記録をつけている。日中は1名だけは時間を見てトイレ誘導しているが他の方は自立しており、職員が見守りしている。排泄については何よりも見守りを優先し、できる限り自立を援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を選び献立のほか、水分量・毎朝の体操・散歩を日課にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の明るい時間帯での入浴は喜ばれている。	通常は週2回は入浴できるようにしている。入浴を拒否する方はいない。入浴剤を使ったり、ゆず湯、しょうぶ湯などでくつろいで、楽しんで入れるように工夫している。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的は主治医の往診で理解出来る。服薬の効能・変化についての相談も出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮しながら、個々の役割を持っていただき、達成感につなげたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴日以外は、近隣の散歩コースに出かけ季節感を感じ、普段行けない場所は行事として計画したり、家族にお願いしている。	天気の良い日は近隣のアメニティー散策路や地区センターへ、車イスの方も出かける。遠方には車で八景島や動物園へ行き、外食をして帰ってくる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望、能力に応じた支援を行っている。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聞きたいときは、何時でも電話を使えるようにしている。手紙も切手をはり投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を貼ったり一人ひとりの作品を飾ったりして、季節感、生活感を出している。	玄関から館内全体が見渡せ開放的である。リビングは日当たりがよく明るい。廊下の壁面には行事や外出の写真、利用者手作りの作品を飾っている。花瓶の花や緑が季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有できるものを置いたり、毎月の作品を掲示したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使いなれたもの、大切にしていたもの、家族の写真等を居室に置くことによって安心して過ごしていただいている。	居室には整理タンス、鏡台、仏壇、神棚、ベッドなどの使い慣れた家具類が置かれている。壁にはぬり絵やカレンダー、家族の写真を、枕元に縫いぐるみ、などを置いて落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、すべてバリアフリー。手すりの設置で安全を優先している。表札や表示によって混乱しないような環境にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ほのぼのほ一む

作成日 平成22年4月22日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害・消防に関する備蓄	非常用としての防寒用毛布、トイレ（排泄）用品等を準備する。	どのような物が必要か調べる。	6ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。